

## [26]韓国研究センター年報

<https://hdl.handle.net/2324/7434194>

---

出版情報：韓国研究センター年報. 26, 2026-03-21. Research Center for Korean Studies, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



2025 年度  
韓国研究センター活動



## KF 研究事業

### 【KF 研究事業：学際的研究ランチ】

# 「ポスト1965年体制」研究共同研究会

(2025年6月7日)

2025年6月7日(土)に、ソウルの韓国放送通信大学で、韓国研究センター・九州韓国研究者フォーラム・アジア平和と歴史研究所共催で合同研究会を実施した。

「日韓国交正常化60年、市民社会の交流と連帯を振り返る」と題して行われた本研究会では、現代日韓における市民社会での連帯運動や交流事業の事例を取り上げ、その意義や展望を考察する多彩な報告が行われた。報告後は、討論者も交えた議論の中で、国交正常化後の両国関係における「市民」の位置づけ、また市民社会の果たしてきた役割に関する問題提起も行われ、今後の比較研究の発展につながる有意義な研究会となった。

タイトル：「日韓国交正常化60年、市民社会の交流と連帯を振り返る」研究会

日 時：2025年6月7日(土)

会 場：韓国放送通信大学本館206号室

共 催：九州韓国研究者フォーラム・アジアの平和と歴史研究所

後 援：韓国国際交流財団

#### □プログラム

開催の辞：李 信澈（アジアの平和と歴史研究所 所長）

共催挨拶：平井 一臣（九州韓国研究者フォーラム 代表）

#### 第1部

司会 鄭 敬娥（大分大学 教授）

第1報告 イム・グッピーョン（市民活動家）

・「平澤—愛媛の交流20年」

第2報告 木下 奈津紀（佐賀女子短期大学准教授）

・「佐賀における日韓交流のいま」

討論：佐々木 亮（長崎新聞記者）、金旻榮（群山大学）

#### 第2部

司会 殷 丁泰（アジアの平和と歴史研究所）

第3報告 市村 繫和（翻訳家・独立研究者）

・「広島における85-86年の指紋押捺拒否と連帯運動」

第4報告 韓 恵仁（アジアの平和と歴史研究所）

・「北海道遺骨運動と韓日地域市民連帯」

討論：金 仁徳（青巖大学）、大和裕美子（九州共立大学教授）



第4回 九州韓国研究者フォーラム・アジアの平和と歴史研究所 合同研究会

## 日韓国交正常化60年, 市民社会の交流と連帯を振り返る

日時：2025年6月7日(土) 14:00～18:00  
場所：韓国放送通信大学ヨルリン館419号セミナー室

総合司会：殷丁泰（アジアの平和と歴史研究所） 通訳：裴昭然（韓国語）、平原奈央子（日本語）	
14:00～18:00（13:30開場） ・開会の辞：李信澈（アジアの平和と歴史研究所 所長） ・共催挨拶：平井一臣（九州韓国研究者フォーラム 代表）	
<b>第1部 14:15～15:55 司会 鄭敬娥（大分大学）</b> ・発表1 平澤-愛媛の交流20年 イム・グッピョン（市民活動家） ・発表2 佐賀における日韓交流のいま 木下奈津紀（佐賀女子短期大学） ・討論：佐々木亮（長崎新聞）、金旻榮（群山大学） ・閉会の辞：出水薫（九州大学韓国研究センター センター長）	<b>第2部 16:10～17:50 司会 殷丁泰（アジアの平和と歴史研究所）</b> ・発表3 広島における85-86年の指紋押捺拒否と連帯運動 市村繁和（翻訳家・独立研究者） ・発表4 北海道道骨運動と韓日地域市民連帯 韓惠仁（アジアの平和と歴史研究所） ・討論：金仁徳（青巖大学）、大和裕美子（九州共立大学）

主催 九州韓国研究者フォーラム

後援

## 【KF 研究事業：教育学ブランチ】

# 第5回教育学ブランチ共同研究会

(2025年7月25日)

2025年7月25日（金）に、教育学ブランチ主催の研究会がソウル大学で開催された。

本研究会では、報告者として、立教大学の佐々木正徳先生と公州大学の金訓鎬先生、討論者として慶一大学の朴志淑先生が登壇された。

当日は、対面・オンラインあわせて22名が出席し、盛況のうちに開催された。登壇された報告者2名、指定討論者いずれもが国立ソウル大学校師範大学の出身・留学経験者でもあり、現役の院生たちも食い入るように議論に参加し、日韓に通底する課題に関わりながらも、立ち位置の違いにより見え方も大きく異なる今回のテーマについて、韓国の地で議論することの意味を強く感じられる研究会となった。

### タイトル「1990年代以降の日韓の教育政策を世界的潮流の中に読み解く」

日 時：2025年7月25日（金）15：00～17：30

会 場：ソウル大学師範大学10棟110号

主 催：九州大学韓国研究センター

後 援：韓国国際交流財団

### □プログラム

全体企画：元兼 正浩（九州大学人間環境学研究院教授）

司 会：鄭 修娟（九州産業大学国際文化学部専任講師）

第1報告：金 訓鎬（国立公州大学校師範大学教育学科副教授）

・「韓国教育行政ガバナンスの争点と課題—国家教育委員会を中心に」

第2報告：佐々木 正徳（立教大学外国語教育センター教授）

・「ダークツーリズムは教育たり得るか？」

指定討論者：朴 志淑（慶一大学校平生教育学部助教授）



九州大学韓国研究センター研究事業『多角的・多角的な日韓関係発展のための総合的政策研究』  
규슈대학 한국연구센터 연구사업 '다원적·다각적인 한일관계 발전을 위한 종합적 정책연구'

第5回教育学ブランチ研究会  
제5회 교육학 연구회

1990年代以降の日韓の教育政策を  
世界的潮流の中に読み解く  
1990년대 이후의 한일 교육정책을  
세계적인 조류 속에서 해석하다

2025 7/25 [FRI] 15:00~17:30  
(14:30 受付開始 접수 개시)

会場: ソウル大学校師範大学10棟110号

화장: 서울대학교 사범대학 10동 110호



※オンライン参加を希望する場合は  
事前登録が必要になります。  
※온라인 참가를 희망하시는 경우 사전 등록이 필요합니다.

後援: 韓国国際交流財団  
후원: 한국국제교류재단

PROGRAM

全体企画: 元兼 正浩 (九州大学大学院教授/ソウル大学校師範大学客員研究員)

企画協力: 모토카네 마사히로 (규슈대학교대학원교수/서울대학교 사범대학 객원 연구원)

司会進行: 鄭脩娟 (九州産業大学国際文化学部専任講師)

사회 진행: 정수연 (규슈산업대학 국제문화학부 전임강사)

1 韓国教育行政ガバナンスの争点と  
課題—国家教育委員会を中心に

한국 교육행정거버넌스의 쟁점과 과제:  
국가교육위원회를 중심으로

報告者: 金訓鎬 (国立公州大学校師範大学  
教育学科副教授)  
보고자: 김훈호 (국립공주대학교 사범대학 교육학과 부교수)

2 다크투어리즘は  
教育たり得るか?

다크투어리즘(Dark Tourism)은  
교육일 수 있을까?

報告者: 佐々木 正徳 (立教大学  
外国語教育研究センター教授)  
보고자: 사사키 마사노리 (릿쿄대학 외국어교육연구센터 교수)

指定討論 지정토론 朴志淑 (慶一大学校 平生教育学部助教授) 박지숙 (경일대학교 평생교육학부 조교수)

[問い合わせ先] 九州大学韓国研究センター E-mail: intkrcks.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp  
문의 규슈대학교한국연구센터

## 【KF 研究事業：言語学・文学ブランチ】

九州大学韓国研究センター研究事業講演会（白川豊先生講演会）

# 「日本での朝鮮（K）近現代文学の翻訳状況： 私の翻訳・研究を添えて」

（2025年10月10日）

2025年10月10日（金）、言語学・文学ブランチでは、白川豊先生（九州産業大学名誉教授）を講師として招き、朝鮮近現代文学の日本における翻訳と受容の歴史の変遷や現状についてご講演頂いた。

昨年のハン・ガン氏のノーベル文学賞受賞も含め、近年急速に韓国文学への関心が高まっている日本だが、白川先生ご自身の翻訳のエピソードも交えながら、近代から今まで続く日本での朝鮮文学受容の流れに位置づけつつ、現代の「K - 文学」の人気や今後の展望を再検討できる意義深いご講演であった。

当日は、研究者やメディア関係者、一般市民など、20名を超える参加者が来場し、ご講演後にも活発な質疑応答が行われた。

日 時：2025年10月10日（金）18時～20時

会 場：JR博多シティ10階会議室 A+B

司 会：辻野 裕紀（九州大学韓国研究センター副センター長）

後 援：韓国国際交流財団

### □講演者プロフィール

1950年、香川県生まれ。1975年、東京大学文学部卒業。1979年、韓国に留学し東国大学校大学院（国語国文学専攻）博士課程修了（1990年、文学博士）。

1994～2020年、九州産業大学国際文化学部教授（現在、名誉教授）。朝鮮学会顧問。著書『植民地期朝鮮の作家と日本』（大学教育出版、1995年）、『朝鮮近代の知日派作家、苦闘の軌跡』（勉誠出版、2008年）、『張赫宙研究』（東国大学校出版部、2010年）、訳書『三代』（廉想渉作、平凡社、2012年）、『驟雨』（廉想渉作、書肆侃侃房、2019年）、『木々、坂に立つ』（黄順元作、書肆侃侃房、2022年）など。



# 翻訳

九州大学韓国研究センター研究事業講演会

## 日本での朝鮮(K) 近現代文学の翻訳状況： 私の翻訳・研究を添えて

2025年10月10日(金) 18:00-20:00

会場) JR博多シティ10階会議室A+B

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街1番1号(博多駅直結) TEL:092-292-9258

司会) 辻野 裕紀(九州大学韓国研究センター副センター長)

定員  
60名  
(先着順)

講師) 白川 豊氏(九州産業大学名誉教授)

プロフィール:

1950年、香川県生まれ。1975年、東京大学文学部卒業。  
1979年、韓国に留学し東国大学校大学院(国語国文学専攻)博士課程修了(1990年、文学博士)。  
1994～2020年、九州産業大学国際文化学部教授(現在、名誉教授)。  
朝鮮学会顧問。



著書『植民地期朝鮮の作家と日本』(大学教育出版、1995年)、『朝鮮近代の知日派作家、苦闘の軌跡』(勉誠出版、2008年)、『漢語研究』(東国大学校出版部、2010年)、  
訳書『三代』(理想社、平凡社、2012年)、『龍雨』(理想社、書肆伙侶房、2019年)、『木々、表に立つ』(興隆元作、書肆伙侶房、2022年)など。

※本講演会は、韓国国際交流財団による助成を受け現在進行中の研究事業  
「多角的・多角的な日韓関係発展のための総合的政策的研究」における  
言語学・文学ブランチプロジェクトの一環として開催されます。

事前登録方法: 下記のURLもしくはQRコードからご登録お願いします。  
<https://forms.gle/XtWanP4g3YHKQwV1A>



お問い合わせ先 九州大学韓国研究センター TEL▶092-802-2027 E-Mail▶intkrcks.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp

## 【KF 研究事業：教育学ブランチ】

# 第6回教育学ブランチ研究会

(2025年10月10日)

2025年10月10日(金)に、九州大学韓国研究センター主催の研究会が明治大学で開催された。本研究会は、明治大学の山下達也教授と教育学ブランチ代表者の元兼正浩教授による報告、田中友佳子准教授(芝浦工業大学)による指定討論、質疑応答や意見交換が行われた。

山下先生の報告では、植民地朝鮮における初等教育制度の変化過程を当時の公的文書、雑誌、政策推進側による記録等を通じて緻密な分析がなされ、長期戦略としてのストラテジーの有無、教育制度拡充に伴う教員不足や師範学校の拡充政策、内地との関係、アジア特有の同化と排除の併存など様々な角度から質問が行われました。元兼先生の報告では、韓国社会と教育の可能性そして課題について、草の根民主主義と教育公正性といった視点で韓国の3つの大学(国立公州大学校師範大学、ソウル大学校、成均館大学校東アジア研究所)での客員研究員としての生活体験を手がかりとして韓国教育社会を日本との比較を通じた文化論的検討発表が行われた。

また当日は、研究者以外にも、日本教育新聞社記者や文部科学省韓国教育制度担当者、大韓民国大使館関係者など、専門性の高い10名の参加者が同席し、実のある協議を行うことができた。

タイトル：「1990年代以降の日韓の教育政策を世界的潮流の中に読み解く」

日時：2025年10月10日(金) 16:00~18:30 (開場 15:30~)

会場：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー 9階1092教室

主催：九州大学韓国研究センター

後援：韓国国際交流財団

### □プログラム

司会：田中 友佳子(芝浦工業大学准教授)

第1報告：山下 達也(明治大学文学部教授)

・「植民地朝鮮における未完の義務教育制度—初等教育拡充政策の再解釈に向けた試論」

第2報告：元兼 正浩(九州大学大学院人間環境学研究院教授)

・「韓国教育社会の比較文化論的検討—サバティカル成果報告を兼ねて—」

指定討論者：田中 友佳子





九州大学韓国研究センター 教育学ブランチ第6回研究会

# 1990年代以降の 日韓の教育政策を 世界的潮流の中に読み解く

2025年10月10日(金) 16:00-18:30  
(15:30開場)

会場  
明治大学駿河台キャンパス  
リバティタワー9階1092教室

開催形式  
対面および  
オンライン

司会および指定討論者  
田中 友佳子 (芝浦工業大学准教授)

報告者および報告題

<b>山下 達也</b> (明治大学文学部教授)	<b>元兼 正浩</b> (九州大学大学院人間環境学研究院教授)
植民地朝鮮における未完の義務教育制度 — 初等教育拡充政策の再解釈に向けた試論 —	韓国教育社会の比較文化論的検討 — サバティカル成果報告を兼ねて —

参加登録 オンラインでの参加希望者は、[motokane.masahiro.720@m.kyushu-u.ac.jp](mailto:motokane.masahiro.720@m.kyushu-u.ac.jp) にメールで申し込みをお願いします  
お問い合わせ • TEL:092-0802-2027 E-mail • [intlkrcks.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp](mailto:intlkrcks.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp)

後援：韓国国際交流財団 ※本研究会は、韓国国際交流財団助成事業「多面的・多角的な日韓関係発展のための総合的政策研究」の一環として開催されます。

## 【KF 研究事業：学際的研究ブランチ】

# 韓国研究センター・九州韓国研究者フォーラム・ソウル大学日本研究所・ソウル大学国際学研究所共催の合同学術シンポジウム開催

(2025年11月15日)

2025年11月15日（土）、学際的研究ブランチでは、韓国研究センター・九州韓国研究者フォーラム・ソウル大学日本研究所・ソウル大学国際学研究所の共催で、日韓国交正常化60周年を振り返る合同学術シンポジウムを開催した。当日は、「解放80周年／日韓国交正常化60年」を共通項に、国内政治・外交・安全保障・経済・市民社会など、様々な領域からの問題提起や議論が行われた。また、会場からも質問が相次ぎ、充実した議論の時間となった。

タイトル：「解放80周年、日韓国交正常化60年、日韓韓国の過去・現在・未来」

日時：2025年11月15日（土）15：30～18：30

会場：アクロス福岡会議室

共催：九州大学韓国研究センター・九州韓国研究者フォーラム・ソウル大学日本研究所・ソウル大学国際学研究所

後援：韓国国際交流財団

### □プログラム

司会：緒方 義広（福岡大学准教授）

第1報告：パク・テギョン（ソウル大学国際大学院教授）

・「韓日協定 60 年、未だ残る問題群：海洋、安保、そして共感帯」

第2報告：パク・ジファン（ソウル大学日本研究所所長）

・「観光と文化交流を通じてみた韓日相互理解の限界」

第3報告：リュ・ギヒョン（ソウル大学国史学科 BK 准教授）

・「韓米日“軍事協力”の制度的起源：駐日国連軍地位協定（UNSOFA）の締結過程とその歴史的遺産」

第4報告：出水 薫（九州大学韓国研究センター所長）

・「日本政治の大統領化・『右傾化』と日韓政府間関係への影響」

第5報告：山口 祐香（九州大学韓国研究センター助教）

・「在日コリアンと日韓国交正常化 60 年：地域史からの応答」



九州大学韓国研究センター・九州韓国研究者フォーラム  
ソウル大学校日本研究所・ソウル大学校国際学研究所 共催

## 日韓国交正常化60周年記念 合同学術シンポジウム

# 解放80年、日韓国交正常化60年 日韓関係の過去・現在・未来

日時 2025年 11月15日 (土) 15:30~18:30  
(15:00開場)

司会 緒方義広 (福岡大学)

使用言語 日本語・韓国語 (通訳提供なし)

### 報告者

- |   |                           |                                       |                        |
|---|---------------------------|---------------------------------------|------------------------|
| <b>01</b> 韓日協定60年、未だ残る問題群：海洋、安保、そして共感帯                    | パク・テギョン<br>ソウル大学国際大学院教授   | <b>04</b> 日本政治の大統領化・「右傾化」と日韓政府間関係への影響 | 出水薫<br>九州大学韓国研究センター長   |
| <b>02</b> 観光と文化交流を通じてみた韓日相互理解の限界                          | パク・ジファン<br>ソウル大学日本研究所所長   | <b>05</b> 在日コリアンと日韓国交正常化60年：地域史からの応答  | 山口祐香<br>九州大学韓国研究センター助教 |
| <b>03</b> 韓米日“軍事協力”の制度的起源：駐日国連軍地位協定(UN SOFA)の締結過程とその歴史的遺産 | リュ・ギヒョン<br>ソウル大学国史学科BK准教授 |                                       |                        |

会場 アクロス福岡会議室605  
(福岡市中央区天神1-1-1)

申込はこちら ▶

<https://forms.gle/ERfQdxTsThr36hTF6>  
(先着30名)



後援 韓国国際交流財団

本シンポジウムは 韓国国際交流財団の助成事業「多角的・多角的な日韓関係発展のための総合的政策研究」における学際ブランチプロジェクトの一環です

問い合わせ：九州大学韓国研究センター intlkrcks.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp (◎を@に変換してください)

## 【KF 研究事業：言語学・文学ブランチ】

# 連続講演会の開催

(2025年12月4日～11日)

2025年12/ 4（木）、9（火）、11（木）の3回で、言語学・文学ブランチ主催による連続講演会を九州大学伊都キャンパスにて開催した。

第1回（12月4日：柳川陽介先生）は、韓国文学を作者や作品のみならず、広く翻訳者や読者、編集者、版元などの視座からも照らし、日本における韓国近現代文学受容史の全体像を鮮明に見せてくれる貴重な講演であった。

第2回（12月9日：池貞姫先生）は、朝鮮語に翻訳された夏目漱石の小説『坊っちゃん』をめぐる池先生の仔細なる分析考察が開陳され、さらには〈翻訳に「正解」はあるのか〉という巨きな問いに接近するためのいくつもの鍵鑰が与えられた有意義な講演であった。

第3回（12月11日：高橋梓先生）は、日本における朝鮮文学の研究および翻訳実践についての歴史と、金史良を中心とした高橋先生の専門領域をめぐる思考が丁寧に語られた、非常に刺激的な講演であった。

### □プログラム

司会：辻野 裕紀氏（九州大学韓国研究センター 副センター長）

会場：九州大学伊都キャンパス センター2号館 2201 教室（各回共通）

後援：韓国国際交流財団

- ・第1講演：12月4日（木）10：30～12：00

柳川 陽介氏（埼玉大学人文社会科学研究科准教授）

「韓国文学の読者と翻訳者」

- ・第2講演：12月9日（火）10：30～12：00

池 貞姫氏（愛媛大学法文学部教授）

「翻訳に「正解」はあるか—韓国で翻訳された『坊っちゃん』をめぐる」

- ・第3講演：12月11日（木）10：30～12：00

高橋 梓氏（新潟県立大学国際地域学部講師）

「2つの言語を読む、2つの言語で書く—日本で朝鮮文学を翻訳・研究すること」



九州大学韓国研究センター 2025年韓国国際交流財団助成事業

# 言語学・文学ブランチャ 連続講演会の開催について

会場 九州大学伊都キャンパス センター2号館2201教室

司会 辻野裕紀(九州大学韓国研究センター 副センター長)

第1講演



2025年12月4日(木) 10:30-12:00

## 韓国文学の読者と翻訳者

講師 柳川陽介氏(埼玉大学人文社会科学部研究科准教授)

第2講演



2025年12月9日(火) 10:30-12:00

## 翻訳に「正解」はあるか —韓国で翻訳された『坊っちゃん』をめぐって

講師 池貞姫氏(愛媛大学法文学部教授)

第3講演



2025年12月11日(木) 10:30-12:00

## 2つの言語を読む、2つの言語で書く —日本で朝鮮文学を翻訳・研究すること

講師 高橋梓氏(新潟県立大学国際地域学部講師)

事前申し込み 下記のURLもしくはQRコードから事前にお申し込みください。

<https://forms.gle/ZTKZMnN8Ls2esE4C7>



お問合せ先 九州大学韓国研究センター [intlkrcks.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp](mailto:intlkrcks.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp)

・本講演会は韓国国際交流財団の助成事業「多面的・多角的な日韓関係発展のための総合的政策研究」における言語学・文学ブランチャプロジェクトの一環です。

## 【KF 研究事業：歴史学ブランチ】

# ミニ・シンポジウムの開催

(2025年12月14日)

2025年12月14日（日）に、九州大学韓国研究センターと九州史学会朝鮮学部会共催で、歴史学ブランチによるミニ・シンポジウム「前近代朝鮮における“自分事”としての国際関係」が九州大学で開催された。

当日は、ブランチ責任者の森平雅彦教授（九州大学人文科学研究院）による趣旨説明の後、まず植田喜兵成智・早稲田大学講師が、「国内統合とディアスポラ—統一新羅の統合政策と百済・高句麗遺民問題—」と題して講演し、7世紀に相次いで滅んだ百済・高句麗の遺民の統合をめぐる諸問題が、唐や日本に対する統一新羅の外交政策（7～8世紀）を変化させる重要ファクターであったことが指摘された。

ついで豊島悠果・神田外語大学教授が「『華風』好みのリアリスト—高麗王朝の外交と文化意識—」と題して講演し、文化の参照対象（北宋）と外交の連繫対象（遼・金）とが一致しない高麗前期（11～12世紀）の文化的価値観と外交の関係が論じられた。

最後に辻大和・東京大学准教授が「外国商人は入るべからず—朝鮮後期の国際通商—」と題して講演し、一般に閉鎖的・消極的と評される朝鮮後期（17～19世紀）の国際通商について、関係各国の諸政策が絡み合うなかで外国商人が朝鮮国内に立ち入らない状況が生み出されていくプロセスを、朝鮮側による排他と独占として説明した。

以上の講演を通じ、現代の日本人の目からみて奇妙・不可解にも映る前近代朝鮮の国際関係について、朝鮮側に内在する論理を丁寧に探っていくことが理解への道筋となることが示された。現代の国際関係における他者理解のうえでも示唆に富む成果であるといえる。

### □プログラム

九州史学会朝鮮学部会ミニ・シンポジウム 特集【前近代朝鮮における“自分事”としての国際関係】

趣旨説明 森平 雅彦（九州大学）

第1報告：植田 喜兵成智（早稲田大学）

・「国内統合とディアスポラ—統一新羅の統合政策と百済・高句麗遺民問題—」

第2報告：豊島 悠果（神田外語大学）

・「『華風』好みのリアリスト—高麗王朝の外交と文化意識—」

第3報告：辻 大和（東京大学）

・「外国商人は入るべからず—朝鮮後期の国際通商—」

全体討論

日 時：2025年12月14日（日）13：40～16：00

会 場：九州大学伊都キャンパス イーストゾーン1号館1階 A118教室

実施方法：ZOOMと併用したハイフレックス方式

後 援：韓国国際交流財団

また、以上の報告内容を含む、歴史学ブランチの研究成果の一部として、森平雅彦教授（人文科学研究院）が編者を務めた『朝鮮の王朝外交 “ややこしさ”からの気づき』（集英社新書）が2026年1月12日に刊行された。

# 朝鮮の王朝外交

“ややこしさ”からの気づき

森平雅彦 編

Morihira Masahiko

## 大国と隣り合う 国際情勢を、どのように 生き抜いたのか？

7名の専門家が結集して描く  
朝鮮史研究のニュー・ウェーブ！

政治学者  
「アジア人物史」総監修

姜尚中  
推薦！

深掘りされた専門的な研究の知見に満ち、  
それでいてまるで韓国時代劇ドラマを  
見るようなワクワク感のする本書に脱帽！



集英社新書

【KF 研究事業：学際的研究ブランチ】

## 対馬市における「海峡圏 SDGs」研究会・フィールドワーク

(2026年1月13日～15日)

2026年1月13日（火）から15日（木）にかけて、学際的研究ブランチは、長崎県対馬市において「海峡圏 SDGs」研究会およびフィールドワークを開催した。本研究会は、「対馬モデルを基軸とした海ごみ再利用の実践と地域連携 一日韓島嶼地域における循環型社会と共創ガバナンスを考える―」をテーマとし、日韓の研究者および自治体関係者が一堂に会する取り組みとして実施された。

研究会は1月14日（水）、コワーキングスペース AGORA 対馬にて開催され、対馬市、九州大学韓国研究センター、韓国島振興院、長崎県立大学の関係者らが参加した。韓国側からは、韓国島振興院の金裁潸チーム長による「持続可能な定住の最低条件としての安全な島づくり」、陸守賢副研究委員による「島嶼遺産と持続可能な発展の促進策」と題した報告が行われ、島嶼地域における政策的課題と展望が共有された。

日本側からは、対馬市未来環境部環境政策課による海洋漂着ごみ対策の現状報告や、観光推進部による国際交流事業の紹介がなされ、地域の実践的取り組みについて理解を深めた。さらに、本センター清野聡子副センター長からは、本センターが進める海峡圏 SDGs プロジェクトの取り組みが紹介され、日韓共同研究の意義と今後の可能性が示された。総括コメントでは、長崎県立大学・田村善弘教授および韓国島振興院・金允浩副研究委員より、今後の研究連携に向けた課題と展望が提示された。

同日実施のフィールドワークでは、対馬博物館や徳重姫・宗武志成婚記念碑といった交流史に関わる史跡の視察に加え、対馬クリーンセンター中部中継所、海岸部（クジカ浜）などを訪問し、海洋プラスチック問題の現状とリサイクルの取り組みについて現地で理解を深めた。また、15日には長崎県立対馬高等学校を訪問し、国際交流人材育成や韓国語教育の現場について意見交換を行った。

本研究会およびフィールドワークは、日韓双方が互いの関心や現状を共有し、対馬市の先進的な取り組みを起点として、継続的な研究交流の基盤を構築する「第一歩」として位置づけられる。今後は、島嶼地域に共通する課題に対し、学術研究と地域実践を結びつけた日韓協働の取り組みを一層深化させていく予定である。





## 【KF 研究事業：経済学ブランチ】

# 共同研究会開催

(2026年2月21日)

2026年2月21日(土)、経済学ブランチは共同研究会を開催した。第1セッションでは、ポストコロナ期の貿易関係について、自動車部品貿易に着目した研究報告、第2セッションは、日韓で増加する外国人との共生について、韓国での実践に基づいた報告がなされた。

日 時：2026年2月21日(土) 13:30～17:30

会 場：九州大学西新プラザ(福岡市早良区西新2-16-23)

後 援：韓国国際交流財団 サントリー財団

### □プログラム

#### 第1セッション

「ポストコロナ期における日本の自動車部品貿易一日中韓三か国を中心に」

司会：水野 敦子(九州大学経済学研究院准教授)

報告：藤川 昇悟(西南学院大学教授)

討論：山本 健兒(九州大学名誉教授)

質疑応答

#### 第2セッション

「韓国における外国人共生の取り組み」

司会：深川 博史(東海大学教授)

報告：金 明松(韓国大邱市東部警察署巡査部長)

討論：水野 敦子(九州大学経済学研究院准教授)、藤川昇悟(西南学院大学教授)

質疑応答



その他のセンター関連事業

# 日韓合同学術セミナー共催

(2025年6月22日)

2025年6月22日(日)に、韓国研究センター、九州韓国研究者フォーラム、仁荷大学国際関係研究所の共催で、日韓合同学術セミナーを開催した。

タイトル：日韓合同学術セミナー「日韓国交正常化60周年と、韓国新政府下における日韓関係の展望」

日時：2025年6月22日(日) 14:20~17:40

会場：博多バスターミナル会議室第1ホール

共催：仁荷大学国際関係研究所 K学術拡散センター・九州大学韓国研究センター・九州韓国研究者フォーラム

後援：韓国学中央研究院

공동 학술 세미나  
**한일 국교정상화 60주년과  
 한국 새 정부 하의 한일관계 전망**

2025 6.22(일)  
 14:20 ~ 17:40

장소 하카타 버스 터미널회의실 제1층  
 언어 한국어  
 주최 인하대학교 국제관계연구소 K학술 확산센터,  
 규슈대학교 한국연구센터, 규슈한국연구자포럼  
 후원 한국학중앙연구원

구분	시간	내용
개회식	14:20 - 14:30	<개회사> 이조의 가오루 (규슈대학교 한국연구센터장)
<발표세션>	14:30 - 16:00	<발표> 송석원 (경희대학교) "북중의 한일관계: 또 하나의 스타드라인에 시며"
		오기타 요시히로 (후쿠오카대학교) "85년 체제아에서 한일 상호인식"
커피 브레이크	16:10 - 16:20	이승재 (인하대학교) "러브 앤 스포크 동맹이론에서 본 한일관계 전망"
<종합 토론>	16:20 - 17:30	<시황> 기우의 다카시 (후쿠오카여자대학교)
기념 촬영	17:30 - 17:40	

주최: 인하대학교 국제관계연구소, K학술 확산센터, 규슈대학교 한국연구센터, 규슈한국연구자포럼, 후원: 한국학중앙연구원

# 「第6回韓国島の日記念国際学術大会」参加

(2025年8月7日)

2025年8月7日(木)に韓国の全羅南道ワンド郡にある朝鮮大学校海洋生物研究教育センターで開催された「第6回韓国島の日記念国際学術大会」に出水薫センター長が出席した。学術大会では、「海洋の癒しとブルエコノミー～持続可能な島2.0への飛躍」というテーマのもと、セッション1「海洋と癒し」において討論者として出水薫センター長が登壇、闊達な意見交換を行った。

また、国際学術大会には、日本訪問団として長崎県立大学から田村善弘教授、芳賀普隆准教授、和歌山大学から宋多情特任助教、対馬市SDGs戦略課から前田剛係長も出席し、宋多情特任助教、前田剛係長においては発表者として登壇した。なお、今大会の主催である韓国島振興院とは、協力関係を構築すると共に、日韓の海峡圏を巻き込んだ合同セミナー開催についても検討が行われた。



# 「第18回世界韓国研究コンソーシアム」 (高麗大学) 参加

(2025年8月10日～12日)

2025年8月10-12日、高麗大学で開催された「第18回世界韓国研究コンソーシアム」大会に山口祐香助教が参加した。同コンソーシアムは、2005年に発足した国際学術ネットワークであり、ハーバード大学、UCLA、ロンドン大学、北京大学など、世界の韓国研究センターを有する名門大学が加盟しており、九州大学は日本唯一の加盟校である。第18回大会では、①「韓国、軍事、主権」②「韓国と東アジア政治」③「イデオロギーと記憶」④「女性」と題する4つのパネルセッションが開催され、各国からの参加大学院生による精力的な研究成果が報告された。山口助教は、第3パネルの討論者を務めたほか、各大学の研究センターディレクターの会議に出席し、コンソーシアムを介した国際的な韓国研究の推進協力に関して協議を行った。

일시 TIME	2025년 8월 10일(일) ~ 12일(화) 10 - 12 August 2025
장소 VENUE	고려대학교 서울캠퍼스 백주년삼성기념관 1층 L-라운지 L-Lounge, 1F Centennial Memorial Hall, Korea University
주최 HOSTED BY	고려대학교 글로벌인문학연구원 한국사연구소 · K히스토리확산연구단 Institute for Global Humanities Research and Collaboration (Center for Korean History & Research Center for Fostering K-History)

# 崔恩美氏（峨山政策研究院）との意見交換会

(2025年10月22日～23日)

2025年10月22日（水）～23日（木）、日韓関係の専門家である崔恩美氏を招き、学生向け座談会と意見交換会を実施した。崔恩美氏は、韓国有数の民間シンクタンクである 峨山政策研究院の研究委員であり、日韓外交や歴史認識問題に関する多数の業績の他、政府機関の諮問委員などを務めたご経歴を持つ新進気鋭の研究者である。

22日は、福岡大学・緒方義広准教授のゼミと共催で、「日韓を語ろう 学生×専門家座談会」（会場・福岡大学）を実施し、17名の参加者と共に日韓関係や韓国の社会・文化に関する様々な議論を行った。

23日は、韓国研究センター関係者を交えた意見交換会（会場・九州大学西新プラザ）を実施し、崔氏からの問題提起を受け、日韓関係や韓国学研究的現状を踏まえた九州地域における韓国研究センターの位置づけと展望について活発な議論を行った。



# 現代日本学会主催「日韓国交正常化60周年 記念国際学術会議」参加

(2025年11月5日～6日)

2025年11月5日(水)～6日(木)、出水薫センター長が、ソウル市内で開催の現代日本学会主催日韓国交正常化60周年国際学術会議「共生と繁栄に向けた歩み」に参加し、2日目のセッション11「日韓学術交流の新たな指標」では、日本側パネリストとして登壇した。

韓日国交正常化  
60周年 国際学術会議

# 共生と 繁栄に 向けた歩み

2025年11月5日(水)  
—— 11月6日(木)

- 場所  
ロッテホテルソウル
- 主催  
現代日本学会, 東北亜歴史財団
- 後援  
外交部, 韓国言論振興財団
- 共同主管  
韓国政治学会, 韓国国際政治学会, 現代韓国朝鮮学会

参加申し込み

1965-2025  
JAPAN-KOREA

# 韓国国会立法調査処長・李官厚氏特別講演会

(2025年11月21日)

2025年11月21日（金）、九州大学韓国研究センターは、九州韓国研究者フォーラムとの共催で、に特別講演「韓国の民主主義の危機と展望：戒厳および弾劾以降の政党政治」を開催した。本講演会には、韓国国会立法調査処長である李官厚（イ・グァヌ）氏を講師として招き、近年の韓国政治をめぐる情勢についてご講演いただいた。

2024年12月の非常戒厳令の宣布に始まり、翌年3月の大統領罷免決定、さらには同年6月に新大統領が選出されるに至るまでの一連の政治的展開は、日本国内においても極めて高い関心を集めてきた。このような激動の時期において、韓国国会立法調査処は重要な政策的・制度的役割を果たしており、その責任者である処長ご本人から直接お話を伺える貴重な機会となった。当日は、研究者・メディア・一般市民・学生など、70名近い参加者が集まり、李処長の講演を熱心に聞くと共に、闊達な質疑応答が行われた。

日 時：2025年11月21日（金）19時～20時半

会 場：JR博多シティ10階会議室 C+D

定 員：80名（先着順）

主 催：九州大学韓国研究センター、九州韓国研究者フォーラム

後 援：駐福岡大韓民国総領事館



九州大学韓国研究センター×九州韓国研究者フォーラム共催

# 韓国国会立法調査処長 李官厚氏特別講演

2025年11月21日(金)  
19:00-20:30(開場18:30)

場所  
JR博多シティ会議室10階会議室C+D

定員  
80名  
(先着順)

題目  
韓国の民主主義の危機と展望：戒厳と弾劾以降の政党政治

発表言語 韓国語(逐次通訳あり)



URLもしくはQRコードからご登録をお願いします  
<https://forms.gle/bhWURp26aZ389EA>



講師  
**李官厚氏**(イ・グナム氏 韓国国会立法調査処長)

プロフィール  
イギリスユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)にて政治学博士を取得。  
韓国国務総理秘書室議事録メッセージ秘書官、建國大学常徳義教養大学教授を  
経て、現在、韓国国会立法調査処長を務める。

後援：駐福岡大韓民国総領事館  
問合せ先：九州大学韓国研究センター TEL：092-802-2027 E-mail：intlkrcks.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp



# 国際学術シンポジウム（漢陽大学）への登壇

(2025年12月8日)

2025年12月8日、漢陽大学において開催された国際学術シンポジウムに出水薫センター長と山口祐香助教が参加した。本シンポジウムは、漢陽大学と九州大学との間で締結されたMOU（部局間交流協定）を記念して開催されたもので、両大学による共催シンポジウムとして実施された。

当日は、「Academic Exchange」セクションおよび「Kyushu Univ. Alumni」セクションの二部構成で発表が行われた。「Academic Exchange」セクションでは、出水センター長が「On Presidentialization of a Parliamentary Democracy through the Japanese case」と題して研究発表を行い、山口助教が「Kyushu University's International Development in Asia: Focusing on the Initiatives of the Korea Research Center」と題し、九州大学および本センターの国際的な取り組みについて紹介した。

シンポジウムには両大学の研究者が一堂に会し、専門分野を超えた活発かつ有意義な議論が交わされ、今後さらなる共同研究や学術交流へと発展していくことが期待される、大変実り多いシンポジウムとなった。



# 第9回「日韓市民未来対話」 in 佐賀県 (ソウル大学日本研究所主催) の開催協力

(2025年12月11日～13日)

2025年12月11日（木）から12月13日（土）、第9回「2025日韓市民未来対話」（主催：ソウル大学校日本研究所）が佐賀県武雄市・有田町で開催された。韓国研究センターも日本側の協力大学として、山口祐香助教がコーディネーターとして参加した。

本行事の趣旨は、「日韓両国の各界専門家、学者、NGO、一般市民が、昨今の東北アジアにおける環境変化及び両国が直面する共同の懸案について共に解決方を模索し、未来志向的で相互互恵的な日韓関係の基盤を構築する」である。日韓国交正常化60周年である今年第9回目を迎え、初めての九州地域での開催が実現した。

今年のテーマは「境界を超える対話」をテーマに、特に日韓の共通課題である地方創生の課題や展望に焦点が当てられた。日韓の研究者、メディア関係者、企業人、市民団体関係者、学生など、あわせて38名の参加者が集い、武雄市役所でのまちづくり政策に関する講義や武雄市図書館・歴史資料館の取り組みに関する講義、朝鮮陶工と有田焼の歴史に関する史跡フィールドワークなどを通じて、刺激的な学びや活発な議論が行われた。

最終日のグループ別活動成果発表の際には、出水薫センター長による講評が行われ、ソウル-東京間の関係性に限らず、「九州」という地域から日韓関係を再考することの意義が提起された。



# 研究集会「京城の能成、東京の能成 〈安倍能成日記から見えてきたもの〉」の開催

(2025年12月20日)

2025年12月20日（土）、東京大学駒場地区キャンパス内の旧制第一高等学校の教室にて、科研費による研究集会（研究代表者：通堂あゆみ、本学韓国研究センター学術共同研究員）が開催され、当日司会を永島広紀教授（韓国研究センター専任教員）が務めた。

研究集会の主役は、哲学者・教育者として著名な安倍能成（あべ・よししげ、1883～1966）とその未公開の日記である。安倍は京城帝国大学教授として法文学部の哲学史講座を担当、その後、第一高等学校の校長などを経て戦後直後には文部大臣を歴任、さらには学習院長・学習院大学々長として活躍した人物であった。

今回の研究集会では科研のメンバーに加え、安倍能成を研究している著名な研究者の方々が一堂に会する貴重な場となった。一方、会場には安倍のご子孫・ご親戚の方々も出席し、懇親会まで含めて貴重かつ歴史的な情報交換の空間となった。

研究集会 京城の能成、東京の能成  
—〈安倍能成日記〉から見えてきたもの—

日時：令和7（2025）年12月20日（土） 13:00～18:00（予定）  
場所：東京大学駒場地区キャンパス 1号館157番教室  
主催：安倍能成日記研究会（科学研究費・基盤(C)「京城時代の安倍能成」）

【次期】  
開会の挨拶・趣意説明・来賓紹介（13:00～13:10）

第1部：基調講演（13:10～14:00）  
高田恵子（南山学院大学）  
安倍能成、「正直」と「いい加減」のあいだで

第2部：研究報告（14:10～16:50）【休替 15:40～15:50】  
通堂あゆみ（武蔵高等学校中学校）14:10～14:40  
藤原し、再訪する非人教授たち  
許智香（立命館大学）14:40～15:10  
京都府立文学部と安倍能成—一筆生人学生との接点を中心に—  
新里理菜子（長崎外国語大学）15:10～15:40  
京城帝大下りの修業年浪生正について—受け継がれた外国語教育観—  
青木一平（江戸川学園取手高等学校）15:50～16:20  
宗法文人としての安倍能成—「日記」の伝承と継承をめぐる—  
福岡寛之（福岡大学）16:20～16:50  
その後の安倍能成—福澤文芸懇話会での民衆化論をめぐりに—

第3部：総合討論（17:00～17:55）「安倍日記を解読に際して」  
モデレーター：  
中野目 徹（筑波大学）、山口輝臣（東京大学）  
島尾光太郎（学習院大学）  
東原行：赤松区立（九州大学）

懇会の辞（17:55）  
懇親会（18:30～）

1. 参加のお申込みはこちらから



# 公開シンポジウム「韓国学からみる日韓関係 のなかの在日コリアンとアイデンティティ・ ポリティックス」の共催

(2026年1月10日)

2026年1月10日(土)、仁荷大学国際関係研究所 K 学術拡散センターの主催で公開シンポジウム「韓国学からみる日韓関係のなかの在日コリアンとアイデンティティ・ポリティックス」が北海道大学札幌キャンパスで開催され、九州大学韓国研究センターは共催機関の1つとして参加した。

当日は、山口祐香助教が第2セッション「アイデンティティの多様性：時代と文化」に登壇し、「戦後日本における在日コリアンの歴史実践—『在日史学』の萌芽からミュージアムまで」と題して報告を行った。

日 時：2026年1月10日(土) 10:30～17:00

会 場：北大人文社会科学教育研究棟 W203号室

共 催：仁荷大学国際関係研究所 K 学術拡散センター・北海道大学公共政策大学院・九州大学韓国研究センター・九州韓国研究者フォーラム

後 援：韓国学中央研究院





# 徐台教氏公開学習会の開催

(2026年2月28日)

2026年2月28日(土)、韓国研究センターは、福岡大学人文学部緒方義広研究室、西南学院大学ことばの力養成講座との共催により、公開学習会「朝鮮半島の統一は実現するのか?分断80年の歴史と未来」を開催した。講師に、韓国在住ジャーナリストの徐台教氏を、聞き手に、福岡大学人文学部准教授の緒方義広先生を招き、近著で話題の『分断八〇年 韓国民主義と南北統一の限界』を軸に、韓国の現状を歴史的な背景を踏まえご講演いただいた。

**講演題：「朝鮮半島の統一は実現するのか?分断80年の歴史と未来」**

司 会：緒方義広（福岡大学准教授）

日 時：2026年2月28日（土）14時

会 場：会場：西南学院大学 2号館2階201教室

主 催：九州大学韓国研究センター・福岡大学人文学部緒方義広研究室・西南学院大学ことばの力養成講座



\*入場無料，事前予約不要

主催(三者共催)：九州大学韓国研究センター  
福岡大学人文学部緒方義広研究室  
西南学院大学ことばの力養成講座

## 韓国在住ジャーナリスト 徐台教さん 公開学習会 “朝鮮半島の統一は実現するのか？ 分断80年の歴史と未来”



日時 2026年2月28日(土)

14:00～ \* 終了後，サイン会開催

場所 西南学院大学

2号館(2階) 201教室

登壇者 徐台教ソ・テギョさん 韓国在住ジャーナリスト

緒方義広さん 聞き手，福岡大学人文学部准教授

徐台教(ソ・テギョ) 1978年，群馬県生まれの在日コリアン三世。小学校は朝鮮学校，中学校・高校は公立学校で学び，韓国の高麗大学東洋史学科を卒業後，1999年からソウルに住み人権NGO代表や日本メディアの記者として朝鮮半島問題に関わる。2015年韓国に「永住帰国」と同時に独立，2025年9月現在，オリジナルニュースレター「コリア・フォーカス」編集長。主な取材テーマは，朝鮮半島の分断，南北関係，韓国政治など。Yahoo!ニュースや日本メディアへの寄稿・出演多数。ソウル外国人特派員協会(SFCC)正会員。2022年「第七回鶴峰賞言論部門優秀賞」受賞。2025年9月，朝鮮半島の南北分断の歴史とその現代的な影響を捉える単著『分断80年 韓国民主義と南北統一の限界』(集英社クリエイティブ)を上梓。



問い合わせ先 西南学院大学ことばの力養成講座 法・田村元彦

[mtamura@seinan-gu.ac.jp](mailto:mtamura@seinan-gu.ac.jp)

協力：福岡青年法律家協会・FSL(Fukuoka Scholar&Lawyer)，NPO 法人九州アドボカシーセンター

# 2025年度韓国研究センター活動

## 2025年度

- 4月 1日 辻野裕紀副センター長が、4月より NHK ラジオ「まいにちハングル講座」の講師を務める
- 4月19日 九州韓国研究者フォーラムとの連携協力に関する協定書調印
- 5月21日 韓国国際交流財団東京事務所表敬訪問（ハン・ソウン所長、ジャン・ヒョジョン研究員とお会いする）
- 5月22日 駐日本国大韓民国大使館表敬訪問（パク・チョルヒ大使、イ・ジョンホ参事官とお会いする）
- 6月 7日 「日韓国交正常化 60年」市民社会の交流・連帯をテーマに共同研究会を実施（アジアの歴史と平和研究所、フォーラム共催）
- 6月16日、17日 清野聡子副センター長が「大阪・関西万博 対馬ウィークシンポジウム」へ参加（海洋環境と国際協力）
- 6月22日 日韓合同学術セミナー「日韓国交正常化60周年と、韓国新政府下における日韓関係の展望」開催（九州韓国研究者フォーラム、仁荷大学国際関係研究所の共催）
- 6月26日 韓国国際交流財団キム・ギファン理事が、石橋総長を表敬訪問
- 7月 1日 韓国研究センター研究プロジェクトアドバイザーとして3名（鹿児島大学平井一臣名誉教授、福岡女子大学木村貴教授、福岡大学緒方義広准教授）が就任
- 7月11日 講演会「朝鮮学校を取り巻く差別と現状」共催にて開催
- 7月18日 韓国誠信女子大学関係者の来訪・意見交換（研究協力協議）
- 7月25日 教育学ランチ研究会（ソウル）開催報告（教育政策比較など）
- 8月 7日 韓国の全羅南道ワンド郡にある朝鮮大学校海洋生物研究教育センターで開催された「第6回韓国島の日記念国際学術大会」に出水薫センター長が出席。
- 8月10日～12日 山口祐香助教が「第18回世界韓国研究コンソーシアム」@高麗大学ソウルキャンパスに出席
- 9月 1日 外国人訪問研究員としてイム・サンミン（東義大学校日本学科 教授）、ジョ・チョルヒ（マネートゥデイ 記者）氏の受入開始
- 10月10日 教育学ランチ研究会 開催
- 10月10日 言語学・文学ランチ研究会開催。講師：白川豊先生
- 10月22日～23日 崔恩美氏（峨山政策研究院）来訪 & 座談会・意見交換開催
- 10月31日 韓国・仁荷大学校国際関係研究所との MOU 締結
- 11月 5日～ 6日 出水薫センター長がソウル市内で開催の、現代日本学会主催、日韓国交正常化60周年国際学術会議「共生と繁栄に向けた歩み」に参加
- 11月13日 スロベニア・リュブリャナ大学のカン・ビョンユン准教授がセンターを訪問
- 11月15日 九州大学韓国研究センター・九州韓国研究者フォーラム・ソウル大学日本研究所・ソウル大学国際学研究所の共催で「日韓国交正常化60周年を振り返る」合同学術シンポジウムを開催
- 11月21日 韓国国会立法調査処長 李官厚氏 特別講演開催

- 11月27日 外国人訪問研究員ペク・キョンミン（スンシル大学校 准教授）氏の受入終了
- 12月 4日 言語学・文学ブランチ研究会開催。講師：埼玉大学准教授 柳川陽介先生
- 12月 8日 韓国ソウルにて開催された九州大学・漢陽大学日韓国交正常化60周年記念合同シンポジウムに参加
- 12月 9日 Korea Foundation ソウルオフィス表敬訪問
- 12月 9日 誠信女子大学人文科学研究所とのMOU締結
- 12月 9日 言語学・文学ブランチ研究会開催。講師：愛媛大学教授 池貞姫先生
- 12月11日 言語学・文学ブランチ研究会開催。講師：新潟県立大学講師 高橋梓先生
- 12月11日～13日  
第9回「日韓市民未来対話」in 佐賀県（ソウル大学日本研究所主催）の開催協力
- 12月14日 歴史学ブランチ シンポジウム開催
- 12月26日 山口祐香助教が西日本新聞で紹介（出版記念イベント関連）

## 2026年

- 1月 1日 外国人訪問研究員としてホン・ウォンピョ（忠南研究所研究員）氏の受入開始
- 1月10日 公開シンポジウム（北海道大学、韓国仁荷大学国際関係研究所共催）「韓国学からみる日韓関係のなかの在日コリアンとアイデンティティ・ポリティックス」開催
- 1月13日～15日  
「海峽圏 SDGs」研究会・フィールドワークを対馬市で開催
- 1月15日 韓国島振興院とのMOU締結
- 2月21日 経済学ブランチ研究会開催
- 2月28日 ソウル在住ジャーナリスト徐台教氏公開学習会「朝鮮半島の統一は実現するのか？分断80年の歴史と未来」開催
- 3月 6日 韓国・仁荷大学国際関係研究所 MOU締結記念国際学術シンポジウム開催

# 2025년도 한국연구센터 활동 목록

## 2025년

- 4월 1일 쓰지노 유키 부센터장, 4월부터 NHK 라디오 '매일 한글 강좌' 강사 역임
- 4월19일 규슈한국연구자포럼과의 연계 협력에 관한 협정서 조인
- 5월21일 한국국제교류재단 (KF) 도쿄 사무소 예방
- 5월22일 주일본대한민국대사관 예방, 박철희 대사 면담.
- 6월 7일 '한일 국교 정상화 60주년' 기념 공동 연구회 실시 (아시아 역사와 평화연구소, 규슈한국연구자포럼 공동 주최)
- 6월16, 17일  
세이노 사토코 부센터장, '오사카·간사이 엑스포 쓰시마 워크 심포지엄' 협력
- 6월22일 한일 합동 학술 세미나 '한일 국교 정상화 60주년과 한국 새 정부 하의 한일 관계 전망' 개최 (규슈한국연구자포럼, 인하대학교 국제관계연구소 공동 주최)
- 6월26일 한국국제교류재단 김기환 이사장, 이시바시 다츠로 규슈대학교 총장 예방
- 7월 1일 한국연구센터 연구 프로젝트 어드바이저 3명 취임 (가고시마대학 히라이 가즈오미 명예교수, 후쿠오카여자대학 키무라 다카시 교수, 후쿠오카대학 오가타 요시히로 준교수)
- 7월11일 강연회 '조선학교를 둘러싼 차별과 현황' (NPO 법인 규슈 애드보커시 센터와 공동 주최)
- 7월18일 한국 성신여자대학교 관계자 내방 및 의견 교환
- 7월25일 교육학 브랜치 제5회 연구회 (서울) 개최 보고
- 8월 7일 전라남도 완도군 조선대학교 해양생물연구교육센터 개최 '제6회 한국 섬의 날 기념 국제학술대회' 이즈미 카오루 센터장 참석
- 8월10~12일  
야마구치 유카 조교, '제18회 세계한국학컨소시엄' (고려대학교 서울캠퍼스) 참석
- 9월 1일 외국인 방문연구원 수용 개시: 임상민 (동의대학교 일본학과 교수), 조철희 (머니투데이 기자)
- 10월10일 교육학 브랜치 제6회 연구회 개최 (도쿄)
- 10월10일 언어학·문학 브랜치 연구회 개최 (강사: 시라카와 유타카 규슈산업대학명예교수)
- 10월22~23일  
최은미 박사 (아산정책연구원) 내방 및 좌담회·의견 교환회 개최 (니시진 플라자)
- 10월31일 한국 인하대학교 국제관계연구소와 MOU 체결
- 11월 5월~ 6일  
이즈미 가오루 센터장, 서울 개최 현대일본학회 주최 한일 국교 정상화 60주년 국제학술회의 '공생과 번영을 향한 발걸음' 참석
- 11월13일 슬로베니아 류블랴나 대학교 강병윤 준교수 센터 방문
- 11월15일 합동 학술 심포지엄 '한일 국교 정상화 60주년을 돌아보다' 개최 (규슈한국연구자포럼, 서울대학교일본연구소 및 국제학연구소 공동 주최)
- 11월21일 한국국회입법조사처 이관후 처장 특별 강연 개최 (JR 하카타역회의실)
- 11월27일 외국인 방문연구원 백경민 준교수 (송실대학교) 수용 종료
- 12월 4일 언어학·문학 브랜치 연구회 개최 (강사: 야나가와 요스케 사이타마대학 준교수)
- 12월 8일 서울 개최 규슈대학교·한양대학교 한일 국교 정상화 60주년 기념 합동 심포지엄 참석

- 12월 9일 한국국제교류재단 (Korea Foundation) 서울 사무소 예방
- 12월 9일 성신여자대학교 인문과학연구소와 MOU 체결
- 12월 9일 언어학·문학 브랜치 연구회 개최 (강사: 지정희 에히메대학 교수)
- 12월11일 언어학·문학 브랜치 연구회 개최 (강사: 다카하시 아즈사니이가타현립대학 강사)
- 12월11~13일 제9회 '한일 시민 미래 대화' in 사가현 (서울대 일본연구소 주최) 개최 협력
- 12월14일 역사학 브랜치 심포지엄 개최 (규슈대학교)
- 12월26일 야마구치 유카 조교, 출판 기념 이벤트 관련하여 서일본신문에서 소개

## 2026년

- 1월 1일 외국인 방문연구원 홍원표 연구원 (충남연구원) 수용 개시
- 1월10일 공개 심포지엄 '한국학으로 보는 한일 관계 속 재일동포와 정체성 정치' 개최 (홋카이도대학교 공공정책대학원, 인하대 국제관계연구소, 규슈한국연구자포럼 공동 주최)
- 1월13~15일 쓰시마시에서 '해협권 SDGs' 연구회 및 필드워크 개최 (한국섬진흥원과 공동 개최)
- 1월15일 한국 섬진흥원과 MOU 체결
- 2월21일 경제학 브랜치 연구회 개최 (니시진 플라자)
- 2월28일 서대교 기자 공개 학습회 '한반도 통일은 실현될 것인가? 분단 80년의 역사와 미래' 개최 (세이난학원대학, 규슈한국연구자포럼과 공동 개최)
- 3월 6일 인하대학교 국제관계연구소 MOU 체결 기념 국제학술 심포지엄 개최 (인하대학교)